開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験・	・実習・実技		
科目名	Java I						
実務経験		ーション開発業剤	8の実務経験及	ひびシステム開	発業務の実施	8経験を3年	以上持っ
教員	ている教員が	担当					
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 時間	(状況よ	りオンラインと対	面の併用形式	;)
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標	これらを通し	並行し基本入出力 て、Java プログ ケーションが作品	ラミングの基	礎及びアルゴ		を理解し、独	力で初級
授業内容	Java by Java の	たいけんでは、 大いけんでは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いは、 大いながった。 大いは、 大いは、 大いは、 大いながった。 大いながらいながらい。 大いながらいながらい。 大いながらいながらい。 大いながらいながらい。 大いながらいながらいながらい。 大いながらいながらいながらい。 大いながらいながらいながらい。 大いながらいながらいながらい。 大いながらいながらいながらい。 大いながらいながらいながらいながらいながらい。 大いながらいながらいながらいながらいながらいながらいながらいながらいながらいながら	業務の 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所	る教員から、『 などを踏まえて ble, boolean) intln, print, p 使った break 作したクラス ラバ成 小に収納	で以下項目の orintf) が を利用する	実施。	
評価方法	①実施単元ご ②授業の終盤 ③授業態度 ④出席状況	との提出課題 に実施する制作詞	果題(グルー)	プワーク Or	個人)		
		芰、ペーパーを 彳	うう場合は4割	削で計算			
		に満たない場合し 期日までのレポ-		リ単位の回復を	を認める		
その他	80%以上の						

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期		□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・	実技		
科目名	C言語							
実務経験	1	のメンテナンス及	なびシステム原	開発業務の実施	务経験を	3年	<u>以上持って</u>	ている教員が
教員	担当							
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択			
授業時間	前期 5	6 時間/後期	時間	(状況よ	こりオンライ	ンと対す	面の併用が	形式)
対象学年	情報システム	工学科1年						
到達目標	求に対しての	言語の基礎となる ロジックの考えが する手法を学習す	うや制御文を					
授業内容	シュフニ / 門交:		たこれら 目れ	2.11年本公子会1	±>1+±	1-11"		
		業務経験を持つ教 を踏まえて、C 言				ηd		
	 ①変数とデー	夕型について						
		(printf, scanf, g		ar, gets, puts)			
		f 構造,while,for ペインタ変数での	-					
評価方法	①実施単元ご							
		に実施する制作説	課題(グルー)	プワーク Or	個人)			
	③授業態度 ④出席状況							
	課題は6割程	度、ペーパーを行		削で計算				
		に満たない場合に 期日までのレポ-)単位の回復を	を認める			
その他	80%以上の		1 11 12/100	<u> </u>	— hin < 2 の			

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後期	□通期	3
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・乳	実技	
科目名	C 言語/C++						
実務経験		のメンテナンス』	及びシステム原	開発業務の実施	务経験を (3年以上持つ	っている教員が
教員	担当						
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択		
授業時間	前期	時間/後期	56 時間	(状況よ	こりオンライン	と対面の併用	用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標	求に対しての	言語の基礎となる ロジックの考えで する手法を学習で	方や制御文を 🕏				
授業内容	いけない規則: ①ユーザー定 関数の定義: ②ポインタ 配列のアド のアクセス方: ③構造体 異なるデー ④応用問題	業務経験を持つま を踏まえて、C言 義関数 方法を認数学び、効率 方法を認めを習得す タ型の値をまた。 の として、応用	語の基本構文 率的に機能分割 か、動的メモリ する。 かて管理するか	てと課題を実施 引ができる基礎 Jの確保の技術 こめの技術を習	さする。 楚となる前 析を学び、 3得する。	能力を習得す アドレスに	
評価方法	③授業態度 ④出席状況 課題は6割程 合計点が6割	こ実施する制作記 要、ペーパーを行 こ満たない場合に	テう場合は 4 割 は欠点	削で計算			
7.0 /II.		朝日までのレポ <u>-</u>	-ト作成により	ノ単位の回復を	を認める		
その他	80%以上の	出席必安					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	ξ	
科目名	Web ページ制作	基礎/Web ペーシ	ジ制作応用				
実務経験							
教員							
必須選択		⊠必	以須 □選	択 □必	須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 時間	(状況よ	こりオンラインとタ	対面の併用形式))
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標		まどのような仕組 CSS を使ったレイフ する。	-				
授業内容	① Webサイ	イトの構築環境の	の準備				
	② HTML 基	基本タグ(H,P,DIV	/, SPAN, BR, TAE	BLE)などを使っ	った制作手法	を理解	
	•	インを理解(id/o み型と外部ファイ					
	_	・イアウトの制作 グによる2カラ		など			
	⑤ Javascr	ipt とは					
	⑥ イベント	の種類					
	⑦ 変数とオ						
	® DOMにつ	いての理解					
	⑨ ミニゲー	-ムの作成による	技術の確立				
評価方法	①実施単元ご。 ②授業の終盤 ③授業態度 ④出席状況	との提出課題 に実施する制作記	課題(グルー)	プワーク Or	個人)		
	課題は6割程 合計点が6割に	度、ペーパーを行 に満たない場合に 期日までのレポ-	は欠点		を認める		
その他	80%以上の		1 111/2/100	· 1 프 • / 田 汉 (_ piu-> O		

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通	期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・	実技	
科目名	Windows アプリ	Jケーション基礎					
実務経験							
教員							
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択		
授業時間	前期 2	8 時間/後期	時間	(状況。	よりオンライン	と対面の係	#用形式)
対象学年	情報システム						
到達目標		される Windows 抗 コールの利用方法				発方法の習	習得。基礎的なフ
授業内容							
		業務経験のある教 発現場でのコーテ					·
	① Visual	Studio の利用方	法				
	② Windows	s プログラミング	で構築の基礎	* E			
	③ フォー.	ムコントロールの)使い方				
	④ イベン	トドリブンについ	17				
	(5) 演習課題 (5) 演習課題	題の実施					
評価方法	①実施単元ごの	との提出課題 こ実施する制作語	明 (ガル	ქ□_ <i>ე</i> ეო	/EL 1.)		
	③授業態度	こ天心りの削下が	は(フルー))) —) Ui	[八四]		
	④出席状況	÷ №⊥ ハ° ≠⊄	こう担人/+ // サ	引大斗笠			
		度、ペーパーを行 こ満たない場合に		刊で訂昇			
		朝日までのレポー)単位の回復を	を認める		
その他	80%以上の	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後其	钥	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	望 □実	験・実習	・実技		
科目名	. NET アプリケ	ーション I						
実務経験								
教員								
必須選択		⊠必	須 □	選択 □]必須選択			
授業時間	前期	時間/後期	28 時間	(状	況よりオンラ	ひと対	面の併用が	形式)
対象学年	情報システムニ	Ľ学科1年						
到達目標		される Windows i コールの利用方法			-		法の習得。	基礎的なフ
授業内容								
		業務経験のある 発現場でのコー う					-	
	① 配列。	とコレクション						
	② サブ ⁻	プロシージャ及び	びファンク:	ション				
	③ よく	利用するメソッ	ドの理解					
	④ イベ:	ントとプロシー	ジャについ ⁻	7				
	⑤ 構造個	体とクラス						
	⑥ 演習	課題の実施						
評価方法	T 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	この提出課題 こ実施する制作記	課題(グル-	ープワーク 0	r 個人)			
	③授業態度 ④出席状況							
		度、ペーパーを彳	行う場合はん	4割で計算				
		こ満たない場合に		トハ出たの豆	作を訊ける	z		
 その他	80%以上のは	期日までのレポ <u>-</u> H:席必要	一 PTFDXICo	トツ早仏の凹	1支で認めて	<u>S</u>		
C 4710		111171.7X						

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・身	製	
科目名	データベース						
実務経験							
教員							
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択		
授業時間	前期 2	8 時間/後期	28 時間	(状況。	にりオンライン	と対面の併用刑	/式)
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標		ヒは何かを知り、 由出法を学習。 ようになる。				•	
授業内容	① データベ-	ースとは					
	② データベ-	ースの種類					
	③ RDBMSの指	操作について					
	④ 複雑な検	索条件を指定した	たデータの抽	出手法			
	⑤ 並べ替え	やグループ化					
	⑥ グループイ	化による集計処	理				
	⑦ 副問い合	わせ(サブクエ	IJ)				
	⑧ 表の結合	(JOIN)					
	9 集合演算	(和・差・積)					
		及び演習問題の ように練習を行		必要なデータを	をデータ^	ベースから	
評価方法	①実施単元ごる ②授業の終盤 ③授業態度 ④出席状況	との提出課題 こ実施する制作詞	<u></u> 課題(グルー ⁻	 プワーク 0r	個人)		
	課題は6割程原 合計点が6割に	度、ペーパーをん こ満たない場合し 朝日までのレポ-	ま欠点		を認める		
その他	80%以上の		1 THAIL A	プキ四ツ凹仮で	に可じてる		
C 47 10	0 0 707711071	4D.O. O.					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技		
科目名	情報処理技術者	者					
実務経験							
教員							
必須選択		□必	須 □選	択 ⊠必	須選択		
授業時間	前期 11	2 時間/後期	112 時間	(状況	よりオンラインとタ	対面の併用形式)	
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標	独)情報処理技 標とする。	推進機構(IPA)/	が実施している	る国家資格であ	ある情報処理	技術者試験の取得	非を目
授業内容	基本情報技術者	者免除対象講座受	受講計画にて	IPA に申請して	ている計画に	基づいて実施する) o
	① 基礎	理論					
	② コン	ピュータシステム	Д				
	③ 技術	要素					
	④ 開発	技術					
	⑤ プロ:	ジェクトマネジ	メント				
	⑥ サー	ビスマネジメン	۲				
	⑦ シス・	テム戦略					
	8 経営	戦略					
	9 企業	と法務					
評価方法	①実施単元ごる ②授業の終盤 ③授業態度 ④出席状況	との提出課題 こ実施する制作詞	果題(グルー)	プワーク Or	個人)		
	課題は6割程 合計点が6割り	度、ペーパーを行 こ満たない場合に 朝日までのレポ-	は欠点		を認める		
その他	80%以上のは						

開講年度	2025	開講学期			⊠前	Ī期	⊠後期]	□通期	
授業方法		□講義		⊠演習		□実験	・実習・	実技		
科目名	電気工事実習									
実務経験		務で電気工事実務	多経縣	食のある教	対員カ	担当。	第1種電	気工	事士免状态	を保持してい
教員	る者が担当。									
必須選択		□ழ்	必須	□選	氎択		必須選択	5		
授業時間	前期	56 時間/後期	56	時間		(状況	よりが	かと対	対面の併用]形式)
対象学年	情報システム	工学科1年								
到達目標	基本的な電気	工事回路を理解し	ノ、 確	筐実に作成	を行	う。				
授業内容	単位作業									
	①コンセン	ト回路								
	②電灯・スク	イッチ回路								
	③電灯・コン	ンセント回路								
		トランプ回路								
	⑤3路スイ									
	⑥4路スイ									
	⑦自動点滅器									
	⑧タイムス~	イッチ								
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし	ر 60	0 点以上を	左合格	各とする	0			
		朝日までのレポー	- ト作	F成により	単位	の回復	を認める	00		
その他	80%以上のは	出席必要								

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	⊠演習	□実験	・実習・実	技
科目名	電気工事座学					
実務経験						
教員						
必須選択		□ <u>1</u>	必須 □]選択	必須選択	
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 時間	(状況)	こりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年				
到達目標	電気工事の内轄 する。	幹線や分岐回路の	の設計、それ	らに関する計算	算方法、機	器や法令等について理解
授業内容	電気工事技術					
	①配線図					
	②器具と材料	料				
	③配線設計	と電気工事				
	④検査方法					
	⑤法令					
	 ⑥電灯配線&	と複線図				
	 ⑦電気の基礎	禁理論				
	→ ゼス(V) 조 ド	νς> Ι μ]				
評価方法	③出席率	是出 こ 100 点満点とり	し、60 点以」	-を合格とする。	o	
	④授業態度 ⑤追試や指定!	朝日までのレポ-	ート作成によ	り単位の回復る	を認める。	
その他	80%以上のは	 出席必要				

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		⊠講義	⊠演習	□実験	・実習・実	·····································	
科目名	ハードウェア	既論 (CompTIA	(+A				
実務経験							
教員							
必須選択		⊠必	須 □週	選択 □必	須選択		
授業時間	前期 2	8 時間/後期	28 時間	(状況。	にりオンライン と	≤対面の併用形式)	
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標	•	教材を応用し、/ 取得又は同等の短			_	00	
授業内容	PC コンポーネ	ントのインスト	ールと構成				
		為の安全の確保		い時の ESD 対策			
)ケース視点から -ドの種別、マザ		とについての解	!≣8		
		-ドの阻途とサイ					
	・拡張スロッ						
		USB 端子、ディ					
		装置の解説・キ		アウスなどの入	.出力装置		
		イデバイスにつ		/7 <i>0</i> /2,71	ルレ井	-1:	
		·イ及びマルチメ ·イの種別につい		1 スの1 フスト	一ルと何か	汉,	
		イの憧別につい イスプレイ/プラ		プレイ/右機 F	I		
		・イ端子と接続方			L		
		システムメモリ					
	・メモリ	の種類/デュア)	・ ルチャンネル	/インストー	ル方法		
	マスストレー	ジデバイスについ	ハての解説				
)、光学ドライブ		ての解説			
		バブルドライブ(の解説				
		解説と構成の様式					
	ネットワーク(ル伸成 ワークの基礎知詞	並				
	-	ットワークの構 シープの構	• • •				
		ワーク機材の解					
	• • •	チ(インテリジ:	-, -				
	インタ・	ーネットルータ/	/無線アクセス	スポイント			
		N ケーブルの仕村	様				
	*******	Nの仕様					
評価方法	①実施単元ごの ②授業の終盤 ③授業態度	との提出課題 こ実施する制作記	課題(グルー	プワーク Or	個人)		
	金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東金田東<						
		隻、ペーパーを 彳	行う場合は4	割で計算			
		こ満たない場合に					
~		定期日までのレア	ボート作成に	より単位の回復	复を認める)	
その他	80%以上の	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験・	・実習・実技	
科目名	キャリア対策					
実務経験						
教員						
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択	
授業時間	前期 2	8 時間/後期	28 時間	(状況よ	りカンラインと対	面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年				
到達目標						るかを知る。企業講演 実施し基礎学力の向上
授業内容	①就職活動につ	ついて(試験の種	類など)			
	②職業につい ⁻	7				
	授業だけに対	非言語 問題を 頼らず、SPIの 修得度合いを確認	の問題集を積	亟的に解き、点		
	学生生活	う人の「棚卸し」 を振り返り、面打 トの履歴書と就明	妾や履歴書に決			
		ーク対策 テーマについて? し、内容を評価 [*]		J合い、結果を	ェプレゼンテ-	ーション
	⑥面接対策 年数回、企業 ついて理解	業による講演会を する。	を実施し、就師	哉に対しての心	が構えと業界動	動向に
		企業による講演: るよう対策を行		就職に対して <i>0</i>	か心構えと業!	界動向について
評価方法	①授業内におり ②期末試験 ③授業態度 ④出席状況	ナる小テスト				
	期末試験及0	び小テストの合詞 朝日までのレポ-				あの場合は欠点
その他	80%以上の		1 TEHALCO	, +¤v/□ Ø C	- D/0 < 2	

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後其	月	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習	・実技	
科目名	アルゴリズム基	基礎					
実務経験							
教員							
必須選択		⊠必须	 頁 □選		須選択		
授業時間	前期 2	8 時間/後期	時間	(状況よ	こりオンラー	ひと対	面の併用形式)
対象学年	情報システムニ	工学科1年					
到達目標		成に必要な、処理 トを用いてアルゴ					
授業内容		リズムについて	<i>+ l</i> -71-1+				
	∠. 间遅い	のないプログラム	んと作るには				
	3. フロー ?	チャートの基本図	記号				
	4. フロー ?	チャートによるア	'ルゴリズムā	長現の基本			
	5. 入出力、	計算を含む「順	次」・「選択」	の基本演習			
	6.「反復」	記述の例題と演習	羽 当				
	7. 配列の流	舌用					
	8. 配列を流	舌用する処理の演	習				
	9. サブル-	ーチンの活用					
	10.2重ル-	ープ処理の活用と	演習				
評価方法	①実施単元ごと ②授業の終盤と ③授業態度 ④出席状況	ヒの提出課題 こ実施する制作課	題(グルー)	プワーク Or	個人)		
	課題は6割程 合計点が6割	度、ペーパーを行 こ満たない場合は 朝日までのレポー	欠点		を認める	3	
その他	80%以上のは		I THAIL O	一十四ツ川内で	二 ロ心ひりで	ע	
10							

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験・	・実習・実技	
科目名	システム設計					
実務経験						
教員						
必須選択		⊠必		択 □必:		
授業時間	前期	時間/後期	28 時間	(状況よ	りオンラインと対	面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年				
到達目標		†、開発、テスト 里解させることで			や技法を学習	する。システム開発に
授業内容	4 8834.7	+ 0.15WT				
	1. 開発手法	去の種類				
	2. 企画・	要求定義についる	C			
	3. スケジ:	ュール管理				
	4. 外部設計	計・内部設計にて	ついて			
	5. 設計書の	の様式例の紹介				
	6. プログ ⁻	ラム設計				
	7. アルゴ	Jズムの <u>演</u> 習				
評価方法	①実施単元ごる ②授業の終盤	との提出課題 こ実施する制作詞	果題(グルー)	プワーク Or	個人)	
	③授業態度					
	│④出席状況 │課題は6割程原	隻、ペーパーを 彳	テう場合は4割	削で計算		
	合計点が6割	こ満たない場合に	は欠点		ニョカル フ	
その他	80%以上のは	期日までのレポ <u>-</u> H席必要	- トイトトスルにより	ノ半仏の凹侵を	と認める	
C 47 16		א.מיוויש.				

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	支
科目名	Office 実習					
実務経験						
教員						
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択	
授業時間	前期 2	8 時間/後期	28 時間	(状況よ	こりオンラインとタ	対面の併用形式)
対象学年	情報システム					
到達目標	*	利用について学 [:] 及び、ビジネス?		を習得。		
授業内容	@1.25.4	トキルル イン				
	①ヒンネス) 	文書作成手法				
	②Excel,Wor	rd の連携				
	③ショート:	カットを利用した	き効率的な操作	乍方法		
	⊕MOSØ!	取得に向けた模携	疑試験実施			
	【前期】					
		Office Specia	list Word <i>o</i>)取得を目標と	さする。	
	【後期】	E要関数を使用し	+ Doole She			
		E安) 数を使用し t Office Specli			とする。	
		·				
===/	①実施単元ごる	との担出課題				
評価方法 		こ実施する制作詞	果題(グルー)	プワーク Or	個人)	
	③授業態度 ④出席状況					
		隻、ペーパーを 彳	テう場合は4割	割で計算		
		こ満たない場合は		1出仕の同復す	±≡ग्राफ्र ट	
その他	80%以上のは	朝日までのレポ <u>-</u> 七度必要	- Litiがにてい	ノ半位の凹侵を	と認める	
C 07 16		ゴルか, 交				

開講年度	2025	開講学期		□前期	□後期	⊠通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実	技	
科目名	課外授業						
実務経験							
教員							
必須選択		⊠必	須 □選	択 □必	須選択		
授業時間	前期	8 時間/後期	8 時間	(状況よ	りオンラインとタ	対面の併用形式))
対象学年	情報システム	Ľ学科1年					
到達目標	企業講演会や行得る。	セミナー、実機だ	寅習などを体験	験し、業界の	動向や目指	す職業について	の知識を
授業内容	① 業界セミ	ナー					
	② 人間学セ	ミナー					
	3 租税年金	セミナー					
	④ シーテッ	クの見学					
	⑤ 0B/0G 講	演会					
	6 就職活動	セミナー					
	⑦ 校内合同	企業説明会					
評価方法		との提出課題 こ実施する制作詞	果題(グルー)	プワーク Or	個人)		
	③授業態度 ④出席状況						
	課題は6割程	き、ペーパーを行		削で計算			
		こ満たない場合!! 期日までのレポ-)単位の回復を	を認める		
その他	80%以上のは		. 11720100	, 1 <u>中</u> 7 口 区 (

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験・	・実習・実技	
科目名	Java∏(Androi	d 基礎)				
実務経験			多の実務経験及	びシステム開	発業務の実施	務経験を 3 年以上持っ
教員	ている教員が持	担当				
必須選択		□必	須 □選	沢 ⊠必	須選択	
授業時間	前期	56 時間/後期	時間	(状況よ	りオンラインと対i	面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科2年				
到達目標	** *	1 年までで学ん7 ラミング技法を ⁵		用し、簡単な	アプリケーシ	ノョンの開発を通じて、
授業内容						
		したシステム開 ればいけないコ-				
	■ 1" '		かがこ ハモの	加田大学が		
		んゲームを作り ^ァ ィクスリソースマ	- · · · · ·		開発	
		トの処理方法		, , ,		
	3. Android	アプリ・ライフ	7サイクルにつ	いての基礎		
		アプリを作成し ^ァ ーネットからデ-	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-	(Java での基	本処理)
	2. 非同期 :	タスク処理の実績	麦	,		
	3. JSON デ	ータの取得と活	用方法			
評価方法	①実施単元ごる					
		こ実施する制作語	果題(グルーフ	プワーク Or	個人)	
	③授業態度 ④出席状況					
	O 1 11 1 11 11 11 1	隻、ペーパーを行	テう場合は4害	で計算		
		こ満たない場合に		**************************************	- = 11 4 フ	
スの仏		期日までのレポ- 山麻水亜	- ト作成により	単位の回復を	:認める	
その他	80%以上のは	口净必安				

開講年度	2025	開講学期		□前	前期	⊠後期		□通期	
授業方法		□講義	⊠演	習	□実験・	・実習・	実技		
科目名	モバイル開発								
実務経験		-ション開発業務	の実務経験	験及びシ	ノステム開	発業務(の実務	経験を	3 年以上持っ
教員	ている教員が持	旦当							
必須選択		□必	須 □	選択	⊠必:	須選択			
授業時間	前期	時間/後期	56 時間		(状況)	にりオンライ	ンと対	面の併用	形式)
対象学年	情報システム	工学科2年							
到達目標		1 年までで学んだ ラミング技法を学		を応用し	,、簡単な	アプリク	ァーシ	ョンの開	発を通じて、
授業内容			7/ 11/26 / DEA	a + = +		DD 3V.1W	76		
		したシステム開 ^え 1ばいけないコー		_					
	1. View	を使ったアプリク	ケーション	の開発					
	2. 矩形	判定以外のタッチ	Fイベント:	処理の実	镁				
	3. 効果	音や BGM の利用力	方法						
	4. オブ	ジェクト指向を意	意識したク	ラスの影	計				
	5. スレ	ッドを用いた画面	可更新処理	の実装					
評価方法	①実施単元ごる	との提出課題 こ実施する制作語	理題(グル・	ープワー	-ク Or /	(周人)			
	③授業態度	~	inc () IV	, ,	<i>></i> 01	III/ \/			
	④出席状況 理野は 6 割程	È ∧°⊥. ハ°⊥. ★彡	こう担合け		↓告				
		度、ペーパーを行 こ満たない場合に		4 刮 ぐ言	早				
		明日までのレポー		より単位	江の回復を	記める			
その他	80%以上のは	出席必要							

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	3	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・	実技		
科目名	C++							
実務経験		ーション開発業務	の実務経験及	とびシステム	開発業務	の実務	経験を	3 年以上持っ
教員	ている教員が持	担当 						
必須選択		□必	須 □選	択 ⊠必	須選択			
授業時間	前期 2	8 時間/後期	時間	(状況。	よりオンライ	ンと対応	面の併用	形式)
対象学年	情報システム	工学科2年						
到達目標		コグラミングの基		5.				
		、C#の基本文法/ 析を習得し、作品		、て迁田でき	ス能力を	: 自/	つける '	Vicual
		がを自存し、F6 の開発技術の習得		ノて山市でで	の出に入りて	LAIC.	217 00	visuai
授業内容								
		発業務経験を持つ			意しなけ	れば		
	いけない規則	則を踏まえて、以	ストの内谷を-	子首9句。				
	・C#の基礎2	文法、コーディン	ノグルール					
	・クラスのイ	作成						
	・クラスのシ	派生、委譲 クラス	ζ					
	・アレイリス	ストの取り回し						
	・アレイ内	オブジェクトの内	n容判定					
	・ソートの	美装						
	・LINQとア	レイ						
	・Windowsフ	アプリケーション	開発における	制限事項と流	主意点			
==!	①宝佐出二一	レの担山細町						
評価方法	①実施単元ごる ②授業の終盤	この徒山詠趣 こ実施する制作説	課題(グルー)	プワーク Or	個人)			
	③授業態度							
	④出席状況 課題は 6 割程!	度、ペーパーを行	テう場合け 4 雪	引で計質				
		こ満たない場合に		13 ~ 11 7 T				
		明日までのレポー	-ト作成により)単位の回復	を認める	<u>, </u>		
その他	80%以上のは	出席必要						

開講年度	2025	開講学期		口前	前期	⊠後期		□通期		
授業方法		□講義	⊠演	[習	□実験・	・実習・	実技			
科目名	C#									
実務経験		ーション開発業務	め実務経	験及びら	ノステム開	発業務	の実務	経験を	3 年以上持っ)
教員	ている教員が持	也当 								
必須選択		□必	須	□選択	⊠必	須選択				
授業時間	前期	時間/後期	56 時間		(状況。	よりが	かと対	面の併用	那式)	
対象学年	情報システム	工学科2年								
到達目標		コグラミングの基		する。						
		、C#の基本文法: 析を習得し、作品		シレス	チ田できる	る能力を	: 自/	コナス	Vicual	
		Mを自存し、TFG D開発技術の習得		1200	ан сса	いまとりで	.分に -	クログ 。	visuai	
授業内容			<u> </u>							
		発業務経験を持つ				ましなけ	れば			
	いけない規則 	則を踏まえて、以	以下の内容	を字省で	する。					
	・フォーム	アプリケーション	ノ作成の基	礎						
	・低水準グラ	ラフィックを使っ	って文字や	図形を排	苗画					
	・マルチタス	スク処理の実装								
	・HTTP 通信	を実現し、Web が	からデータ	を取得	(スクレィ	イピング	")			
	·JSON	データを Web から	う取得。							
	・描画処理	(onPaint メソッ	バング アングラング アングラ アングラ アングラ アングラ アング アング アンプログラ アング アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	用方法						
	・print イク	ベントを使った、	印刷処理	の実装方	法					
評価方法	①実施単元ごる			0-		<i>'</i>				
	②授業の終盤 ③授業態度	こ実施する制作語	果題(クル	ーブリー	-ク Or	個人)				
	(4) 出席状況									
		度、ペーパーを行		4割で記	†算					
		こ満たない場合に 期日までのレポ-		上い畄が	かの同復を	に認める				
その他	80%以上のは		1 177510	<u> </u>	エットロ区の	_ ロルマノ ひ				
I	l									

開講年度	2025	開講学期		□前	前期	□後期		⊠通期	
授業方法		□講義	⊠演	習	□実験・	・実習・ 	実技		
科目名	AI プログラミ	ング実習							
実務経験									
教員									
必須選択		□必	須 [□選択	⊠必	須選択			
授業時間	前期 28	時間/後期	28 時	間	(状況	よりが	かとす	付面の併用	那式)
対象学年	情報システム	工学科2年							
到達目標	を利用した問題 タ収集-anal (Project Bas 解析すべきデ	重要とされるデき 題解決の手法であ ysis:分析ーco sed Learning) ラタをどこから 実現すればよいた	ある PPDAC nclusion 改育を実施 見つけ・解	サイクル : 結論) iする。 析に必要	ノ(Problo を受講生 な AI プロ	em:問題 が自律的	iーPla りに学	in:計画- ぶことが	-Data:デー できる PBL
授業内容		こよる分類・回り							
	O 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ログラミングの		· (15422)					
	③深層子省	こよる分類・回り	で (多くを) で	り子省)					
	④時系列予	則・音声解析・目	自然言語処	埋					
	⑤教師なし	学習(クラスタタ	分析・因子	分析)					
	⑥先端 AI 体	馬食							
	深層学習の	を用いてデータの分類・回帰のプロ 見通しを立て、そ	コグラムを	制作でき	る。また	-、任意	データ	に応じた	-
 評価方法 	①実施単元ご ②授業の終盤! ③授業態度	との提出課題 こ実施する制作詞	果題(グル	ープワー	-ク Or ・	個人)			-
	④出席状況								
		度、ペーパーを行 こ満たない場合に		(4割で計	算				
		こ洞にない場合に 期日までのレポ-		より <u>単</u> 位	<u>Iの回</u> 復を	<u>- 認</u> める			
その他	80%以上の	出席必要							

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技		
科目名	.NET アプリケ	ーションⅡ					
実務経験		-ション開発業務	の実務経験及	なびシステム閉	開発業務の実	務経験を 3 :	年以上持っ
教員	ている教員が持	坦当					
必須選択		□必	須 □選	択 ⊠必	須選択		
授業時間	前期 28	時間/後期	時間	(状況	えよりオンラインと	:対面の併用	形式)
対象学年	情報システム						
到達目標		た Windows アフ ※大グミカの共作			引し、.NET7.()と C#を使っ	›た DB と連
		発を行う為の技術 題として自分たち			計を行い、作	成する。	
授業内容	以下の内容を				11 - 13 - 11	,,,,, , , , , , , , , , , , , , , , ,	
	—". I. ["		<i>\</i>				
	・テリケー	トの習得(非ラム	ユンエ()				
	・ラムダ式の	の概念と応用					
	・Using の禾	川用方法					
	・Using に対	対応したクラスの	作成				
	・ファイルの	の入出力パターン					
	・nuget を仮	もったライブラリ	の追加				
	・フォームの	か派生					
) / A	/////\					
	@#### <i>=</i> -"						
評価方法	①実施単元ごる ②授業の終盤し	との提出課題 こ実施する制作詞	果題(グルー)	プワーク Or	個人)		
	③授業態度				,		
	④出席状況 課題は 6 割程度	度、ペーパーを彳	テう場合は 仏里	引で計質			
	合計点が6割	こ満たない場合に	ま欠点				
7.02		期日までのレポー	-ト作成により)単位の回復る	を認める		
その他	80%以上のは	出席必要					

開講年度	2025	開講学期	[⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験・	実習・実技	
科目名	SQL/DBA					
実務経験						
教員						
必須選択		□必	須 □選択	□⊠必	須選択	
授業時間	前期 28	時間/後期	28 時間	(状況	よりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科 2 年				
到達目標		リレーショナル : _/DDL/DCL を一選		理システムを	を操作できる技	技術を習得する。デー
授業内容	② T	PEX の環境、 会は 特に 特に で文理(DML) で文理(DML) で文理(DDL) のを(DCL) ののを(DCL) ののとののののででです。 でででする。 ののでのででです。 ののでのででする。 ででする。 ののででする。 でででする。 ででする。 ででする。 ででする。 でででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 でですでする。 ででですでですでです。 ででですででですでででででででででででででででで	データベースかり データ操作を行 で成・変更・削り スクリプトの作り を理解する。 OCL・トランザク コンシップを理り 成 設計書をもとに	テう 余を行う文法 成を行う。 ション制御 解し、解読す	を理解し、ラ を正しく理解 ⁻ る。	データベース
評価方法	①実施単元ごる ②授業の終盤 ③授業態度	との提出課題 こ実施する制作詞	課題(グループ'	フーク Or イ	個人)	
	④出席状況 課題は6割程 合計点が6割	度、ペーパーを行 こ満たない場合! #ロまるのしず	は欠点		:=刃 <i>はフ</i>	
その他	80%以上のは	朝日までのレポ <u>-</u> 七席必要	ITFIXにより ⁵	サビスには	記るの	
C 4710						

近畿コ	` /}	゚ヿ	一夕	雷子	-車F	門学林	⇆
火火戦し			. /	—	<u>₹</u>	יו דבר	X.

エンジニア分野/IT プログラマ専攻

開講年度	2025	開講学期			⊠前期	⊠後	期	□通期	
授業方法		⊠講義		□演習	□実	験・実習	・実技		
科目名	情報処理技術者	 ⋚							
実務経験									
教員									
必須選択		□必	須	□選択	≥ 5	必須選択	5		
授業時間	前期 112	時間/後期	112	時間	(状況より	オンラインと	ヒ対面の併用形式	(,
対象学年	情報システムコ	匚学科2年							
到達目標	独)情報処理 ^注 標とする。	推進機構(IPA))	が実施し	している	国家資格	である情	報処理	技術者試験の取得	导を目
授業内容	①基礎理論								
	②コンピュ- 	-タシステム							
	③技術要素								
	④開発技術								
	⑤プロジェク	フトマネジメン	\						
	⑥サービス マ	7ネジメント							
	⑦システム単								
	⑧経営戦略								
	9企業と法科	务							
	基本情報技術	所者免除対象講!	本受講 言	計画にて	IPA に申i	請してい	る計画	に基づいて実施す	する。
===	(1) 宝佐出ニーバ	- の担山部町							
評価方法 	①実施単元ごと ②授業の終盤に	-の挺山誅選 -実施する制作詞	課題(ク	ブループ	ワーク 0	r 個人)			
	③授業態度								
	④出席状況 課題は6割程度	き、ペーパーを 行	行う場合	合は4割	で計算				
	合計点が6割に	こ満たない場合(は欠点			,,	_		
スの地		<u> 旧までのレポ-</u> 山帝 ※ 悪	ート作原	成により.	単位の回	復を認め	る		
その他	80%以上のと	「师必安							

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技		
科目名	基礎理論						
実務経験							
教員							
必須選択				選択 🖂 🖂	 必須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	28 時間	(状況)	こりオンラインと対	面の併用形式)	
対象学年	情報システム	工学科 2 年					
到達目標	電気に関する	基礎的な知識、記	計算能力と理	論と応用を学び	び、実際に活り	用する能力を育	でる。
授業内容	オームの 抵抗回い 電流のの ②磁気 磁力の付 誘導イン ③静電気 電解の付 コンデン ④交流 基本回い	格 作用 生質と働き ンダクタンス 生質					
評価方法	①学期末の定算 ②学科目ごとり ③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし	—— ン、60 点以上	 を合格とする。	•		
		朝日までのレポ-	-ト作成により	り単位の回復る	を認める。		
その他	80%以上の	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期		□後期		□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□;	実験・ま	実習・実	ミ技		
科目名	電気回路								
実務経験									
教員									
必須選択			必須 □	選択	⊠必須	頁選択			
授業時間	前期	56 時間/後期	時間	(状	況より	オンラインと	対面	の併用形式	式)
対象学年	情報システム	工学科 2年							
到達目標	電気回路におり	ナる公式を理解し	」計算方法に	ついて理解	解する。				
授業内容	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ のは、どは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	夕回路 回路 素子 ランジスタ 回路 0進数・16進数 理回路	文						
評価方法	①学期末の定算 ②学科目ごと ③出席率	朝試験 こ 100 点満点とし	ノ、60 点以上	を合格と	する。				
	④授業態度 ⑤追試や指定期	朝日までのレポ-	-ト作成によ	り単位の[回復を認	忍める。			
その他	80%以上のは	出席必要							

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実	 技
科目名	電気通信の基础					
実務経験						
教員						
必須選択			必須 □〕	選択	必須選択	
授業時間	前期 2	8 時間/後期	月 時間	(状況。	よりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	Ľ学科 2 年				
到達目標	電気通信回線で	ついての伝送理論	侖を理解し、 ↑	デジタル伝送	路の伝送技術	析について理解する。 -
授業内容	⑦デジタル変詞	章 泉の電気特性 音、反響、SN 比 周方式 式・多重アクセス	ス制御方式			
評価方法	①学期末の定算 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	明試験 こ 100 点満点とし	 ン、60 点以上		0	
	⑤追試や指定期	期日までのレポ-	-ト作成により	J単位の回復?	を認める。	
その他	80%以上のは	出席必要				

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技	
科目名	端末技術					
実務経験						
教員						
必須選択		با	必須□□	選択	必須選択	
授業時間	前期 5	6 時間/後期	明 時間	(状況よ	りオンラインと対	面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科2年				
到達目標	ブロードバン	ドネットワーク ̄	で用いられてい	ハる各種端末詞	段備・機器の構	機能について理解する
授業内容	③LAN の概要 ④LAN の伝送数 ⑤イーサネット ⑥無線 LAN	テムにおける各 媒体 ト LAN ^プ クセス制御方式 長置				
評価方法	①学期末の定期		40 占い L	た 人 牧 レ オ フ		
	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし				
	⑤追試や指定期	朝日までのレポ-	ート作成により	り単位の回復を	を認める。	
その他	80%以上のは	出席必要				

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期	
授業方法		⊠講義	⊠演習	□実験	・実習・実技		
科目名	接続工事技術						
実務経験							
教員							
必須選択		ا	必須 □	選択	必須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	明時間	(状況。	よりオンラインと対	面の併用形式))
対象学年	情報システム	工学科 2 年					
到達目標		ド回線の工事を行 管理について学		ての各種配線	材料、配線工	法、工事試験、	施工上
授業内容	②光ファイバク ③構内情報配線 ④情報配線シブ ⑤コマンド等 ⑥IP ボタン電 ⑦施工管理技術	ステムのフィー) こよる LAN の工 話装置 桁	た LAN の配線 ルドテスト	=			
評価方法	③出席率④授業態度	期試験 こ 100 点満点とし 朝日までのレポ-					
その他	80%以上のは		1 1512/100		<u> </u>		
	ᅵ℧℧ℬ℄℧ℷ	山巾心女					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・賢実・	実技	
科目名	情報セキュリ	ティ					
実務経験							
教員							
必須選択		لي□	必須 □	選択	必須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	時間	(状況	よりオンライン	と対面の併用	形式)
対象学年	情報システム	工学科2年					
到達目標	セキュリティl て理解する。	こ対する考え方、	認証技術、	攻撃の種対と	その対策	、運営管理上	の技術につい
授業内容	②暗号化技術 ③電子認証、F	ムに対する脅威 PKI、デジタル署 ネットワークセ ^ラ リティ管理					
評価方法	①学期末の定期 ②学科目ごとし ③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし	ノ、60 点以」	とを合格とする	ó.		
		朝日までのレポー	-ト作成によ	り単位の回復	を認める。	,	
その他	80%以上の	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期		□後期		□通期	
授業方法		⊠講義	□演習		実験・	実習・	実技		
科目名	ネットワーク技	 支術							
実務経験									
教員									
必須選択		□必	必須 □	選択	⊠必	/須選択	•		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	時間	()	状況よ	りオンライン	ンと対応	面の併用形	式)
対象学年	情報システムコ	Ľ学科 2 年							
到達目標	TCP/IP の基礎	Ěや VoIP, アクセス	ス技術等につ	いて理剤	解する。)			
授業内容	⑥VoIP ⑦HDLC、ATM ⑧広域イーサス	送路符号方式	花						
評価方法	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし							
		明日までのレポー	ト作成により	り単位の	回復を	認める	0		
その他	80%以上のと	出席必要							

開講年度	2025	開講学期		⊠育	前期	□後期]	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	3	□実験	・実習・	実技		
科目名	通信法規								
実務経験									
教員									
必須選択		را□	必須 □	選択	×μ	必須選択	?		
授業時間	前期	112 時間/後期	時間		(状況よ	りかた	と対す	面の併用形	式)
対象学年	情報システム	工学科2年							
到達目標	法の目的、用意	語の定義など電気	気通信回線 設	は備に対	端末設備等	等を接続	まする7	ため法規に	ついて学習
授業内容		規則 合認定等規則							
評価方法	①学期末の定 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし	ン、60 点以」	上を合林	各とする。	- -			
_		朝日までのレポ-	-ト作成によ	り単位	で回復を	を認める	0		
その他	80%以上の	 出席必要							

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	
科目名	ネットワーク	実習				
実務経験 教員	基幹システム(担当	Ŋメンテナンス <i>]</i>	及びシステム閉	発業務の実施	8経験を3年	以上持っている教員が
必須選択		□必	須 □選	択 ⊠必	須選択	
授業時間	前期 28	時間/後期	28 時間	(状況	兄よりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科2年				
到達目標	ネットワークを	を使ったアプリク	ケーション開発	色のノウハウを	を身につける	
授業内容	・L2スイ、 ・ルータの ・VLAN ・DHCP ⁺ ・小規模ネ	歴知識、IPv6のツチの基本設定基本設定を使ったネット「ナーバの構築ットワークの構築	フークの構築	, ンジできる <i>た</i>	ごけの基礎知言	識の習得を行う。
評価方法	③授業態度 ④出席状況 課題は6割程 合計点が6割	こ実施する制作記	テう場合は 4 害 よ欠点	で計算	個人)	
くりに		山巾必安				

開講年度	2025	開講学期		⊠i	前期	⊠後期	3	□通期	
授業方法		⊠講義	□湞	習	□実験・	・実習・	実技		
科目名	ソフトウェア!	里論							
実務経験									
教員									
必須選択		□必	須 [□選択	⊠必	須選択			
授業時間	前期 28	時間/後期	28 時	間	(状況	よりか	ラインと う	対面の併用用	 形式)
対象学年	情報システムコ								
到達目標	基本情報技術者	ブを行う上で必要 皆試験の午後問題 える力や、処理な	題で出題さ	れる、異	疑似言語を	を交えて			
授業内容	以下の内容を	生学習する。							
	① アルゴリ	リズムについて							
	② 処理手順	頁の基本構造 (川	頂次、選択	、反復)					
	3 フローラ	チャート図記号							
	④ 疑似言:	吾の表現							
	⑤ 処理手順	頁及び変数のトし	ノース						
	⑥ 疑似言語	吾例題演習							
		支術者試験の午後 る能力を、演習る		—		リズムに	-		
評価方法	①実施単元ごと ②授業の終盤に ③授業態度 ④出席状況	≤の提出課題 □実施する制作記	果題(グル	ープワー	−ク 0r	個人)			
	課題は6割程 合計点が6割に	き、ペーパーを行 に満たない場合に 明日までのレポ-	は欠点			を認める			
その他	80%以上のと			I I					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・乳	実技	
科目名	キャリア対策						
実務経験							
教員							
必須選択		□必		択	須選択		
授業時間	前期 28	時間/後期	時間	(状況	兄よりオンラー	ひと対面の併	押形式)
対象学年	情報システムコ	C学科2年					
到達目標	継続した業界研 確にしていく	开究・E S 作成	・グループデ	ィスカッショ〕	ンなどの	学習を行い自	身の進路を明
授業内容	会出 就就ビ受リ入 業 ビ・プ ビ・	は は で	ことでは を レ/とでを 大とない 大とない 大とでを 大とでを 大とでも かいできるからでいる。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 しいでできる。 でいるのででする。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでできる。 しいでを。 しいできる。 しいでを。 しいできる。 しいできる。 しいでを。 しいで。 しいでを。	アウ、スコア向」 再確認 スメールの書。 での手続き) (等のアイティ 別に押なマナー 、色マソードで	上に努める き方 ムの意味と ナられる ナーを理解	さい と解説、 Eしていく。	
評価方法	③授業態度 ④出席状況	こ実施する制作詞			個人)		
	合計点が6割に	き、ペーパーを行 に満たない場合に 別日までのレポ-	は欠点		を認める		
その他	80%以上のと		. 117-01-01				
1							

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験・	実習・実技	
科目名	オープンソース実習					
実務経験 教員	基幹システムのメンテナンス及びシステム開発業務の実務経験を 3 年以上持っている教員が 担当					
必須選択		□必	須 □選	択 ⊠必须	須選択	
授業時間	前期 28	時間/後期	28 時間	(状況	よりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム工学科 2 年					
到達目標	オープンソースについての基礎知識を学ぶ。システムの動作環境の概念及び構築を実施 ネットワークサーバ環境を利用した、社内ネットワーク専用アプリケーション開発の設計・ 制作スキルをみにつける					
授業内容	社内 DB サーバ	へのアクセスと	、セキュリテ	ィを意識した	アプリケーシ	下の内容を学習する。 /ョン開発を行う
	 1. My SQLデータベース対応のWindows The substitution of the s					
	・暗号化 ・クライアントパスワードの暗号化 ・送受信データの暗号化					
	2. 社内用サーバを構築し、各種サービスの設定を行うスキルを習得する・ユーザ管理・ファイル共有サービスの提供。・Web サーバおよび、PHP 実行環境の構築・MySQL データベースサーバの構築					
評価方法	③授業態度 ④出席状況 課題は6割程 合計点が6割に	こ実施する制作記 度、ペーパーを行 こ満たない場合に	テう場合は 4 割 は欠点	削で計算	個人)	
7 O III		明日までのレポー いまいま	-ト作成により)単位の回復を	認める	
その他	80%以上のと	出席必要				

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験・	実習・実技	
科目名	作品制作					
実務経験						
教員						
必須選択		□必	須 □選択	⊠必须	須選択	
授業時間	前期	時間/後期	112 時間	(状》	兄よりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科 2 年				
到達目標			レを証明する何だ 生や協調性を発掘			せる。 恵を出させて物事を成
授業内容	期日までに調けます。個人制作へは一番中経過の発力を対けます。	切り替える。 発表会を実施。 了前に本番前の勢	認証後、開発は			合はチームを解散し
評価方法	③授業態度 ④出席状況 課題は6割程 合計点が6割り ⑤追試や指定	こ実施する制作記 き、ペーパーを行 こ満たない場合し 期日までのレポ-	課題(グループワ テう場合は4割で よ欠点 −ト作成により覧	で計算		
その他	80%以上の!	北度必要				

计樂 口	` ル゚ヮ	一夕雷子	7. 車門	学校
N 82 7	ノレリ	у 🖽 🗆	⊏ , 	一 作 X

エンジニア分野/IT プログラマ専攻

開講年度	2025	開講学期		□前期	□後期	⊠通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実持		
科目名	課外授業						
実務経験							
教員							
必須選択		□必	須 □選	訳 ⊠必	必須選択		
授業時間	前期	8 時間/後期	8 時間	(状況よ	りか行いと対	する かんぱん かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ しんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しゅう かんしょう かんしょう かんしょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ	
対象学年	情報システムコ	C学科 2 年					
到達目標	企業講演会や1 得る。	フミナー、実機 シ	寅習などを体	験し、業界の	動向や目指す	す職業について <i>の</i>)知識を
授業内容	①業界セミス	+-					
	②人間学セミ	ミナー					
	③租税年金1	2ミナー					
	④シーテック						
	⑤0B/0G 講演						
	⑥就職活動† 	2ミナー					
	⑦校内合同1	企業説明会					
 評価方法	 ①実施単元ごと	この提出課題					
111111111111111111111111111111111111111		こ実施する制作詞	果題(グルー)	プワーク Or	個人)		
	③授業態度 ④出席状況						
	課題は6割程	隻、ペーパーを 行		割で計算			
		こ満たない場合! 朋日までのレポ-		り単位の同復	を認める		
その他	80%以上のは		1 111-20100	· 1 中小口区	<u> — µю- / </u>		

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	<u> </u>
科目名	測定実習					
実務経験		務で電気工事実	外経験のある	数員が担当。	第1種電気工	事士免状を保持してい
教員	る者が担当。					
必須選択		لو⊠	必須□□ⅰ	選択 □	必須選択	
授業時間	前期	28 時間/後期	28 時間	(状況	えよりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年				
到達目標	電気に関する		各種機器につい	ハて理解を深	め、取り扱い	方法を学ぶことを目的
授業内容	各種 (1) (2) (3) (4) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (7) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	タの静特性 寺性	去・レポート作	F成		
評価方法	③出席率	こ 100 点満点とし	 ノ、60 点以上:	—— を合格とする		
	④授業態度 ⑤追試や指定類	朝日までのレポー	-ト作成により	り単位の回復	を認める。	
その他	80%以上の	 出席必 要				

開講年度	2025	開講学期			⊠前	期	⊠後期		□通期	
授業方法		□講義		⊠演習		□実験	・実習・	実技		
科目名	基本実習									
実務経験										
教員										
必須選択		لا⊠	必須	□道	選択	لاٍٰٰ□	必須選択	1		
授業時間	前期	56 時間/後期	月 56	時間		(状況よ	こりオンライ	ンと対	面の併用形式))
対象学年	情報システム	工学科1年								
到達目標	国家試験電気	工事士試験公表問	問題の	回路を理	里解し	、確実に	こ作成を	行う。		
授業内容	第二種電気工 製作手順の記	事士技能試験公え 説明・製作	長問題							
	第一種電気工事 製作手順の記	事士技能試験公 説明・製作	長問題							
 評価方法	①課題の作製									
	②学科目ごと	こ 100 点満点とし	ノ、60	点以上	を合格	さする。)			
	③出席率 ④授業態度									
		朝日までのレポー	-ト作	成により)単位	:の回復を	を認める	0		
その他	80%以上のは	出席必要								

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実駒	険・実習・乳	美技	
科目名	電気実習						
実務経験		努で電気工事実 和	務経験のある	教員が担当。	第1種電	凤工事士免状	を保持してい
教員	る者が担当。						
必須選択		ليٰ⊠	必須 □	選択 〔	□必須選択		
授業時間	前期	56 時間/後期	28 時間	(状)	況よりオンライ゙	ひと対面の併用]形式)
対象学年	情報システム	Ľ学科1年					
到達目標	電気製図につい 習する	ハての技術・知詞	識を身に着け	る。電気設備	帯の配線方?	去や製図の基础	************************************
授業内容	②線・平面図	-マ字・記号 図 第三角法・寸法記 の使い方	記入				
評価方法	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし					
	⑤追試や指定期	期日までのレポー	ート作成によ	り単位の回復	夏を認める。		
その他	80%以上の	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	<u> </u>
科目名	電気工事実習					
実務経験	_	務で電気工事実務	務経験のある	教員が担当。	第1種電気工	事士免状を保持してい
教員	る者が担当。					
必須選択		й_	必須□□	選択	必須選択	
授業時間	前期	56 時間/後期	56 時間	(状況	兄よりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年				
到達目標	基本的な電気	工事回路を理解し	ノ、確実に作り	成を行う。		
授業内容		イッチ回路 ンセント回路 トランプ回路 ッチ回路 ッチ回路 器				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし	——— ン、60 点以上	— — を合格とする		
	⑤追試や指定期	朝日までのレポー	ト作成によ	り単位の回復	を認める。	
その他	80%以上の	出席必要				

開講年度	2025	開講学期		⊠前	期	⊠後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	<u> </u>	□実験・	・実習・実	· 支	
科目名	キャリア教育							
実務経験	単元に合った現	現役の各種社会	人(インタ-	ーシップ	プ・社会 <i>人</i>	(講和など)	が担当する。	
教員								
必須選択		$\boxtimes y$	必須 [□選択	□Ŵ	必須選択		
授業時間	前期 1	6 時間/後期	16 時間		(状況よ	りかうかと	対面の併用形式	;)
対象学年	情報システム	工学科1年						
到達目標	社会人・職業/ 携授業を行う	人として必要とる	される知識や	や技術を	身につけ	ける。また	、研修を含む企	業との連
授業内容	業界人講話							
	①業界の現場	犬						
	②求められる	る人材						
	③現場作業(の実際						
	④社会人とし	してのマナー						
	企業研修							
	①現場の見き	学						
	②作業手順							
	③安全教育							
	④技術の習行	导						
=亚/エ→:+	 ①学期末の定算							
評価方法 		こ 100 点満点とし	ノ、60 点以_	上を合格	各とする。	•		
	③出席率④授業態度							
		朝日までのレポ-	ート作成に。	より単位	正の回復を	を認める。		
その他	80%以上のは	 出席必要						

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技		
科目名	電気基礎						
実務経験							
教員							
必須選択		$\boxtimes_{\mathcal{I}}$	必須□□ⅰ	選択 □□	必須選択		
授業時間	前期 2	8 時間/後期	28 時間	(状況よ	りオンラインと対	面の併用形式)	
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標	電気に関する基	基礎的な知識、記	計算能力と理認	侖と応用を学び	び、実際に活用	用する能力を育てる) o
授業内容	オカスの抵抗のでのでは、一人のでは、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	格 作用 性質と働き ング 質 とが と との計算 格の計算					
評価方法	①学期末の定期 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	明試験 こ 100 点満点とし	し、60 点以上	を合格とする。			
		期日までのレポ-	ート作成により	り単位の回復る	を認める。		
その他	80%以上のは	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠育	前期	□後期		□通期	
授業方法		⊠講義	□演	習	□実験	・実習・ !	実技		
科目名	電気数学								
実務経験									
教員									
必須選択		$\boxtimes_{\mathcal{U}}$	必須 (□選択	لاٰت	必須選択			
授業時間	前期	28 時間/後期	時間		(状況よ	りオンラインと	二対面	の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年							
到達目標	電気回路を理解	解する上で必要と	となる数学(の基礎を	理解し、	計算力	・法則	りなどを身に	つける。
授業内容	電 ① ② ④ ⑤ ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑥ ⑥	その計算 不等式 `ラフ (
評価方法	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし							
		期日までのレポ-	ート作成に。	より単位	エの凹復を	と認める。)		
その他	80%以上のは	出席必要							

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技	
科目名	無線工学					
実務経験						
教員						
必須選択		⊠必	ダ □選	択 □如	必須選択	
授業時間	前期	28 時間/後期	時間	(状況。	よりオンラインとタ	対面の併用形式)
対象学年	情報システムニ	□学科1年				
到達目標	無線通信を行って理解する。	うために必要な電	波の性質や電	気回路、送気	受信装置、空	中線、測定方法につい
授業内容	無線・金の回信がいる。	置				
評価方法	③出席率	明試験 こ 100 点満点とし	、60 点以上を	合格とする。)	
	④授業態度 ⑤追試や指定期	明日までのレポー	ト作成により!	単位の回復を	を認める。	
その他	80%以上のと	出席必要				

開講年度	2025	開講学期		□前	期	⊠後期		□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	<u> </u>	□実験	・実習・	実技		
科目名	通信技術								
実務経験	12年間、通信	言設備工事の工事	部、技術部	部の職務	・実務網	圣験のあ [.]	る教員	が担当	
教員									
必須選択		⊠业	必須 [□選択	لاٍٰ□	必須選択			
授業時間	前期	時間/後期	28 時間		(状況よ	こりオンライン	と対応	面の併用	形式)
対象学年	情報システム	Ľ学科1年							
到達目標	電気通信回線語	役備に端末設備等	を接続する	るための	技術にて	ついて学	習する	ó.	
授業内容	⑦通信方式と作 ⑧多元接続方3 ⑨LAN 間接続3 ⑩端末設備と	章 泉の電気特性 ランジスタ 音、反響、SN 比 云送・多 三式・クセス 表置 ネットワークセキ							
評価方法	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし							
	⑤追試や指定期	明日までのレポー	-ト作成に。	より単位	で回復を	を認める。)		
その他	80%以上のと	出席必要							

開講年度	2025	開講学期		□Ē	前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	□湞	習	□実験・	実習・実技	
科目名	消防設備						
実務経験							
教員							
必須選択		$\boxtimes_{\mathcal{I}}$	必須	□選択	□必	/須選択	
授業時間	前期	時間/後期	28 時間		(状況よ	りオンラインと対	対面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年					
到達目標	自動火災報知語	没備やガス漏れ	警報設備等	の工事、	または整	経備を行うた	めの知識を習得する。
授業内容	消防 ①構造 ②は ③は ③は ③は の の の の の の の の の の の の の	去令 能について こついて					
評価方法	③出席率	朝試験 こ 100 点満点とし	し、60 点り	以上を合	格とする。		
	④授業態度 ⑤追試や指定期	期日までのレポ-	ート作成に	より単位	立の回復を	:認める。	
その他	80%以上の	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技	
科目名	キャリア対策					
実務経験						
教員						
必須選択			必須 □ⅰ	選択 □┆	必須選択	
授業時間	前期 2	8 時間/後期	28 時間	(状況。	よりオンラインと対	面の併用形式)
対象学年	情報システム	工学科1年				
到達目標		をされる、書類選 就職できるように		食査・面接など	どの対策を行り	ハ、希望する
授業内容	一般常 作文 各種適f ② 応募書類の 履歴書 エントリ ③ 社会人とし	(言語・非言語) 哉				
評価方法	①学期末の定り ②学科目ごとし ③出席率 ④授業態度	期試験 こ 100 点満点とし	 ン、60 点以上:	 を合格とする	0	
		朝日までのレポー	-ト作成により)単位の回復を	を認める。	
その他	80%以上のは	出席必要				

開講年度	2025	開講学期			⊠前	期	⊠後期	3	□通期	
授業方法		⊠講義		⊠演習		□実験	・実習・	実技		
科目名	電気工事座学									
実務経験										
教員										
必須選択		با	必須	□ì	選択	لاِ⊠	必須選択	5		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 F	時間		(状況よ	りオンライ	ンと対	面の併用形	式)
対象学年	情報システムコ	Ľ学科1年								
到達目標	電気工事の内轄 する。	幹線や分岐回路の	の設計	、それ	らに関	する計算	拿方法、	機器	や法令等に	ついて理解
授業内容	電気のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	と電気工事 と複線図								
評価方法	③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし								
	⑤追試や指定期	期日までのレポ-	ート作	成により	り単位	の回復を	を認める) o		
その他	80%以上のと	出席必要								

開講年度	2025	開講学期			図前	期	⊠後期]	□通期			
授業方法		⊠講義		⊠演習		□実験	・実習・	実技				
科目名	情報処理試験対	対策										
実務経験												
教員												
必須選択		□ <u>,</u>	必須	□逞	氎択	لٰإ⊠	必須選択	?				
授業時間	前期 11	2 時間/後期	112	時間		(状況)	よりが	かと対	面の併用形式)			
対象学年	情報システムニ	Ľ学科1年										
到達目標	独)情報処理技	推進機構(IPA)⊅	が実施	している	5国家	資格であ	ある情報	処理 技	支術者試験の取っ	得を目		
授業内容	①基礎理論											
	②コンピュ-	②コンピュータシステム										
	③技術要素											
	④開発技術											
	⑤プロジェクトマネジメント											
	⑥サービスマネジメント											
	⑦システム戦略											
	⑧経営戦略											
	②企業と法務											
	基本情報技術者免除対象講座受講計画にて IPA に申請している計画に基づいて実施する。											
評価方法	③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし										
	⑤追試や指定期	明日までのレポ-	ート作	成により	単位	の回復を	を認める	0				
その他	80%以上のと	出席必要										